



黛民族舞踊文化財団設立20周年祝宴

2006年のアジア民族舞踊交流

財団法人 黛民族舞踊文化財団

理事長 犬丸 直

昨年は中国及び韓国から民族舞踊団を日本へ招いて交流が行われましたが、その様子は次頁以下に報告されているとおりです。

今年は日本の民族舞踊団が中国へ赴いて中国の民族舞踊の方々と交流し、相互学習をする年です。関係者の大きな努力にもかかわらず、時として手違いがあったりして関係の方々に色々とお苦勞をかけるやも知れません。しかしそのような御苦勞も後になってみれば、なつかしい思い出となることでしょう。御一行が無事立派に使命を果たして帰国されることを期待しております。

近年はいろいろと事変や災害の多い年々でしたが、日中韓三国ともに世界のひとびとの目を驚かすような経済発展をとげ、中国は昨年のGDP成長率がフランスを抜き世界第五位に達したと新聞が伝えております。民族芸能は近代産業の発展に直結する営みではありませんが、ひとびとの心と体をきたえ、高め、社会を成長・発展させる要素の一つとして、経済発展の基盤を形成しているものと言うことができます。経済発展は“もの”だけの力で自然に起動されるものではなく、人々の心、気分、向上意欲が働いてこそ、立ち上がり、発展して行くものと思います。躍動する文化・文明の機動力として、こうむった自然災害をはねのけて、われわれの世界の一層の発展を促進する原動力となるように、民族舞踊の一層の興隆をはかり、また各国相互の文化の理解をさらに進展させることを期待したいと存じます。

毎度のことですが、訪中舞踊団は有形、無形の手厚い歓迎とおもてなしに感激と憶い出に胸をふくらませて帰って参りますことでしょう、その報告を聴いて、私共はアジアの民族舞踊文化をさらに発展興隆させるため、一層の努力を重ね、その成果を積み上げて参りたいと存じます。

重ねて中・韓両国の同志のかたがたに、心から感謝の念と敬意をささげて御挨拶とします。

アジア民族舞踊交流会

2005 年 7 月 10 日～7 月 18 日



中国・韓国舞踊団 山下公園にて

【中国雲南省舞踊家協会第 11 次訪日代表団メンバー】

団 長	張 亜 錦	雲南省舞踊家協会秘書長
団 員	馬 雲 祥	楚雄州音楽舞踊家協会主席
	岩 罕 因	西双版纳州音楽舞踊家協会副秘書長
	鄒 建 華	西双版纳州文化局芸術課課長
	李 慶	思茅市舞踊家協会副秘書長
	徐 光 平	雲南省徳欽県文化館館長
	段 媛 媛	昆明青少年活動センター芸術団団長
	張 藝 榮	昆明市盤龍区文化館副館長

【韓国釜山市・ペギムセ舞踊団訪日代表団メンバー】

団 長	崔 恩 姫	景星大学舞踊学科 教授
団 員	河 蓮 花	金 京 娥
	辛 恩 珠	李 周 眩
	金 永 燦	李 炫 征
	成 河 珍	

【黛民族舞踊団メンバー】

団 長	大野 晃	黛 智英	黛 今日子	
団 員	黛 琉美	黛 真也	伊藤 みつ子	
	黛 莉香	森田 明美	村上 三月	宇野 あかり
	五月女舞穂			

アジア民族舞踊交流会の公演日程

2005 年

7 月 9 日(土)	16:00	舞踊交流会	赤坂区民センター(東京都港区)
7 月 10 日(日)	13:00	舞踊交流会	横浜市教育文化ホール
7 月 11 日(月)	12:30	シンポジウム	学習院創立百周年記念会館(目白)
	13:30	舞踊交流会	//
7 月 14 日(木)	18:00	舞踊交流会	日本橋劇場(東京都中央区)
7 月 15 日(金)	14:00	ワークショップ	新田文化会館エアリスホール(群馬県太田市)
7 月 16 日(土)	14:00	舞踊交流会	新田文化会館エアリスホール(群馬県太田市)

出演 中国雲南省舞蹈家協会・韓国舞の会ペギムセ舞踊団

主宰	財団法人	黛民族舞踊文化財団
共催	財団法人	太田市新田文化スポーツ振興事業団
		学習院大学生涯学習センター
		横浜日本中国友好協会
支援	平成 17 年度	文化庁国際芸術交流支援事業
後援		中華人民共和国駐日本国大使館
		駐日本大韓民国大使館
		日本中国文化交流協会

アジア民族舞踊交流会記録

7 月 8 日(金)

今回も中国雲南省各地から集まる団員のビザ取得申請手続きに時間が掛かり、一行の出発に間に合わなくなる恐れが生じたため、当財団もあらゆる手だてを尽くす。

正規の方法で待っていたのでは間に合わなくなる可能性があるため、こちらから重慶の日本総領事館に連絡をとり、状況を説明して張亜錦先生との仲立ちをする。

切迫した連絡調整の末、ぎりぎり搭乗間際にパスポートとビザが手渡されたという、大変スリリングなスタートとなった。

以上のような経緯はあったが、中国舞踊団の一行は予定通り、この日の 13 時 5 分成田空港に到着。通関に多少時間が掛かったが、どうやら無事一行を迎えることが出来た。

又、これより約 1 時間前の便で、韓国の舞踊団一行も到着。全員リムジンバスで宿泊先の都市センターホテルに向かう。

18 時より都市センターホテル内アイリスで日本側スタッフを交え歓迎の小宴を開く。大野常務理事の挨拶で始まり、その後日本側舞台監督、照明家等とアジア民族舞踊交流会の舞台進行に関する詳細な打合せを行う。



ソーラン節（黛民族舞踊団）

この日は明日以降の行動に備えて、各自早めに自室に引き上げる。

7 月 9 日(土)

9 時 30 分ホテルを出発。会場の赤坂区民文化センターに向かう。

14 時リハーサル開始。

16 時より第 1 回目の公演。

大過なく無事終了。

7月10日(日)

朝食の後、一行は東京メトロにて赤坂見附から新橋經由でJR横浜関内に向かう。

この日の会場、横浜市教育文化ホールで10時30分よりリハーサルを行う。

13時より神奈川県日中友好協会の共催による、アジア民族舞踊交流会開演。満員の盛況で公演は大成功。

終演後、横浜勤労福祉会館に於いて日中友好協会主催の歓迎会が開催される。新堀会長をはじめ日中友好協会の方々と暫し交流の時を過ごす。

歓迎会終了後、舞踊団一行を大野常務理事が館長を務める神奈川県民ホールに案内。舞台、客席等を見学し、その後、県民ホール前の山下公園で海を眺めながら自由時間を過ごす。中国代表団は夜の横浜を散策し帰京の途に就く。張亜錦団長と大野常務理事は一足先に帰京し、来年以降の日中舞踊交流事業について意見を交換した。

取り敢えず平成18年度は日本側が雲南省を訪問することとし、以後の事業に関しては改めて検討しなおすことにした。



蕎麦の花が咲いた（中国・イ族舞踊）

7月11日(月)

10時に当日の会場、学習院創立百周年記念会館に到着。

12時30分より「舞台に立つまで」というテーマでシンポジウムが開催される。

諏訪春雄学習院大学名誉教授の司会で日本、中国、韓国の各舞踊団団長がパネラーとして参加し、日中韓それぞれの舞踊団の歴史、日常の稽古のやり方、化粧法、衣裳等について話し合われた。

シンポジウム終了後、交流公演が行われた。

公演終了後、一行は新宿に出て買い物タイムとし、夕食は赤坂飯店で済ます。



チャンゴ(長鼓)の舞（韓国舞踊）

7月12日(火)

この日は訪日団全員を日光へ案内する。

6時30分浅草発の東武日光線「けごん1号」で出発。10時日光駅着。観光バスで一路東照宮へ。

大谷川に懸かる総朱塗りの木橋——神橋を渡り奥へ進む。

徳川家康公を祭神とする東照宮は、元和3年（1617年）創設され、江戸時代の建築文化を代表する建造物だけに、一行も感嘆の声を上げる。

陽明門、眠り猫、輪王寺を巡り、境内を三本杉などの巨木に囲まれ、朱色の社殿がひときわ美しい二荒山中宮祠に詣でる。

ここで特別に八乙女神楽の舞を見せて頂く。



日光市・中禅寺湖畔にて

更に宝物館と立木観音を拝観し、レークサイドホテルで昼食をとる。

食後、約1時間程散策し華厳の滝へ向かう。男体山溶岩流の絶壁に懸かる日本三名瀑の一つ華厳の滝は、霧に包まれることが多く、この時も時間を見てやっと眺めることができた。

日本座敷を希望する団員達の要望に応え、この日の宿泊は全員日本間で過ごすことになった。

食後、男性達は暫く夜の街を散策し床に就いた。

7月13日(水)

日光を9時出発。11時に浅草到着。

15時30分 中国大使館表敬訪問。

16時 韓国大使館表敬訪問。

夜はディズニーランドで観劇。人出の多さに一同びっくり。

7月14日(木)

午前中、皇居と国会議事堂見学。

14時から日本橋劇場にてリハーサル。

18時開演。

この日の公演は、観客があまり多くなく、残念な結果となった。曜日、開演時間等、原因を分析し今後の課題とする。

夕食は赤坂の韓国料理ですませる。

7月15日(金)

全員9時40分浅草発の東武伊勢崎線の特急で、群馬県の太田市に向かう。

この日は、中韓訪日団員と地元小学生を含めた民族舞踊愛好家の方達との交流ワークショップを行う。



棒踊り（黨民族舞踊団）



太田市立生品小学校でのワークショップ

14時15分から16時まで、太田市立生品小学校で4年生の生徒さんを含む400人の人達に、中国の左足舞と韓国の教坊クッコリの舞を二手に別れて指導してもらい、皆それぞれ踊れるようになった。韓国舞踊は秋の運動会で生徒たちが踊って見せるとのこと。

7月16日(木)

朝10時から太田市新田のエアリスホールでリハーサルを行う。

14時開演。収容人員1000席の中規模ホールがほぼ満席となる。今回の交流会最後の舞台が盛況のうちに終り、一同感激のエールを交わす。全行程の千秋楽ということで、日中韓互いに衣裳を交換着用して、記念写真を撮ったり、踊りの振りを教えあったり、心のこもった交流の一時を過ごす。

18時23分太田発、19時53分浅草着の東武特急電車で帰京。

浅草で全員焼き肉料理で夕食を済ます。



日中韓の舞踊家たち

7月17日(日)

訪日団一行、財団法人黛民族舞踊文化財団設立20周年記念祝宴に参加。(詳細——p10. 記事参照)

7月18日(月)

韓国ペギムセ舞踊団は13時55分、成田発の便で釜山に向けて出発。

中国の舞踊団一行は15時発の便で上海に向けて出発。

10日間にわたった今回の交流事業も無事終えることが出来た。



高原女人（中国・トアアン族舞踊）



博多節（黛 琉美）



ペギム・ホトゥンチュム（韓国舞踊）



竹林の奥で（中国・タイ族舞踊）



黒田節（黛 琉美）



生品小学校秋の運動会での韓国舞踊

《交流会プログラム》

第一部

1. 五方神長舞（韓国）

場所を清める儀式に由来している祭儀的な要素を舞で浄化した作品です。踊りの始まりを知らせるため五方色の旗を使って東西南北の場所を清めます。

2. バイ舞（中国・ラフ族舞踊）

ああ、ラフ山の象脚鼓(シャンジャオグー)が鳴り響いています。ラフ族の芦笙が聞こえてきます。ごらんなさい、山の方からラフ族の娘たちがやってきます。

彼女たちはラフ山の村の便りを、そして春の希望を携えてくるのです。

3. 会津磐梯山（日本・福島県）

日本の民謡の中でも、最もよく知られた曲の一つ。四つ竹をリズムカルに打ち鳴らしながら、明るく軽快に踊ります。

4. 竹林の奥で（中国・タイ族二人舞）

西双版纳(シーサンパンナ)のタイ族の青年が竹林の奥で笛を吹き、心を寄せているタイ族の娘を呼ぶと、二人は竹林の中で楽しそうに踊り始めます。お互いに募る思いを訴え、心を通い合わせているのです。

5. 太平舞（韓国）

王と王妃、そして太平聖代を祝うために舞う踊りで、動きが繊細で優雅で動作一つ一つに節度があります。特にステップが多様で、この踊りだけが持つ味といえるでしょう。重要無形文化財第 92 号に指定されています。

6. 芦笙舞（中国・イ族舞踊）

古歌：かつてこの世界には天も地もなかった。
誰が天と地を創ったのだろう？
格子天神が天と地を創り
太陽と星を配置し、男と女を生じさせた。
この時からこの世界に人間が生まれた。

7. 鳩間仲森（日本・沖縄県）

鳩間仲森は西表島北方洋上に浮かぶ周囲三・五キロメートルの鳩間島に生れた謡です。島の中岡から見た豊かな自然の景観と純朴な島人の織りなす風土をうたったものです。鳩間節はユンタから節謡に改作され、舞踊がついて結願祭の奉納舞踊として発達してきました。鳩間島ではスディナ、カカンの装束にタナシィと呼ぶ打掛を用い、頭飾りもはなやかですが、石垣四ヶ村あたりではスディナ、カカンに色物手巾、四つ竹で踊るのが一般的な形です。

8. 高原女人（中国・トーン族舞踊）

「女性がいなければいろりは燃えない。そしていろりのないところにも家はある」
山里の女性たちは両手で家を支えています。山里の女性たちは両手で火種の絶えないいろりを守っているのです。

9. チャンゴ〈長鼓〉の舞（韓国）

農楽の舞からソルチャンゴの個人技を抜粋した作品で、スカートのすそを腰にまきつけ、チャンゴをたたくりズムと舞の構成で多様な変化をもたらし、舞台との調和を追求しながら創作した作品です。

第二部

1. 博多節（日本・福岡県）

博多帯めめ

筑前絞り

歩む姿は柳腰

少ない動きの中で門付芸の面影を残しながらも格調ある美の表現を試みたものです。

6. 舞バラ（韓国）

バラ(bala)は「力」という言葉で、かすれた音を出し、方々にいる衆生を済度するという意味として使われる楽器を指します。世界を清らかに浄化する祈願様式の踊りで形象化した作品です。

2. 徳欽弦子舞（中国・チベット族舞踊）

「徳欽弦子舞」は独特な地域性と民族性の特色を併せもっています。「弦子舞」は弦子という楽器で伴奏され、歌いながら踊る舞踊です。チベット語では「儀(イー)」と呼び、その意味は輪になって歌ったり踊ったりして互いに楽しむ舞踊です。弦子舞を踊るとき、男性は「馬尾胡」(弦楽器)を弾きながら歌い踊り、女性は飾りのついた袖の衣裳で舞って一種の歓喜に満ちた優美でのびのびとした雰囲気をかもし出し、幸せで円満な思想と感情への憧れを表現します。

7. 左足舞（中国・イ族舞踊）

高山の頂上ではさまざまな花が咲き乱れ、若者や娘が飛び跳ねて輪ができた内外で列をなしている。若者たちも娘たちも手をつなぎ足をあわせて仲むつまじく集ってとても楽しそう。

8. ペギム・ホトゥンチュム（韓国）

舞いと楽しさ、そこに粋(いき)な感じが調和している神明な舞です。

進行形式は 行ー交ー合 の構造で、そこに即興性、創意性、表現性を加味しています。

3. 教坊クッコリの舞（韓国）

四分の三拍子(クッコリ)のリズムに合わせ、落ちつきながらねばりがあり、繊細に舞う踊りで、哀切な雰囲気がある。また静、重、妙味を引き出し、無我の境地までいざなう魅力を持った踊りです。

9. 祝い舞（日本・宮城県）

〔花田植〕

東北・仙台市の郊外の秋保地区に伝わる民俗芸能で、豊年を願い、一心に祈りを込めて苗を植える乙女達の姿を踊りにしたものです。

〔豊年舞〕

土に生きた私たちの祖先は、豊かな稔りこそこの上ない喜びだったに違いありません。その豊年を祝い祈る踊りこそ、舞踊のエネルギーの原点とも言えます。豊年の喜びを歌い上げた踊りです。

4. ソーラン節（日本・北海道）

四方を海に囲まれた日本では、各地に数多くの大漁祝い唄が伝わっていますが、その中でもポピュラーな曲の一つです。よく知られたメロディーに乗せて、若い娘たちが爽やかで闊達な踊りを展開します。

5. 蕎麦の花が咲いた（中国・イ族舞踊）

天真爛漫な美しいイ族の娘たちは満開のそばの花のように、風と太陽の季節のもとで清新で美しくずっと咲き続けています。

黛民族舞踊文化財団設立 20 周年祝宴

2005 年 7 月 17 日

財団設立 10 周年の時期に、黛節子前理事長は周年記念祝宴会を計画されていらっしゃいましたが、諸般の事情で実現できず、改めて 20 周年には盛大にやろうよと、おっしゃっていらっしゃったのに、残念ながら先生はその日を迎えることなく他界されてしまいました。

私達としても亡き先生の御遺志を実現すべく、この度慎重に準備を進めてまいりました。

常日頃、財団の活動に御理解を頂き、御支援を賜っている方々に、少しでも多くお集まり頂き、亡き先生の民族舞踊に賭けた熱い熱情を偲んで頂けたらと企画致しました。

会場は亡き黛節子先生のお好きだったホテル オークラのコンチネンタルルームに設定させて頂きました。

当日はアジア民族舞踊交流会で招聘した中国雲南省舞蹈家協会の張亜錦秘書長はじめ舞踊団一行と韓国釜山のペギムセ舞踊団の方々も参加して下さいました。

又、韓国舞踊界との交流の道筋をつけて下さった、韓国舞踊界の重鎮、韓国創舞芸術院理事長金梅子先生もご出席下さり、華やかな祝宴となりました。

祝宴会は 13 時より黛民族舞踊文化財団大野晃常務理事

の司会で始まりました。

始めに黛民族舞踊文化財団犬丸直理事長のご挨拶があり、続いて中国雲南省舞蹈家協会張亜錦秘書長と、韓国創舞芸術院金梅子理事長からご挨拶を頂戴しました。

御来賓のご挨拶を頂戴した後、祝典歌舞に移りました。

最初は亡き節子先生ともお仕事上のお付き合いを頂いた民謡界の第一人者、本條秀太郎先生に切干地唄等、唄と演奏を披露して頂きました。その後、次のように各国の舞踊が続きました。

ソーラン節（日本）

左足舞（中国）

教坊クッコリの舞（韓国）

祝い舞（日本）

多数の御参加を頂き、祝宴会は大盛況でした。

御参列の皆様方、何れの方も亡き節子先生の足跡を偲び、財団の今後の活動に期待され、励ましのお言葉を多くお寄せ下さいました。財団並びに舞踊団一同、有り難いことと深く感謝しております。御報告の場をお借りして、改めて厚く御礼申し上げます。



挨拶する当財団犬丸理事長と安田理事



司会をする当財団大野常務理事



中国・張亜錦秘書長



韓国・金梅子創舞芸術院院長



前列左から当財団犬丸直理事長、当財団安田敬一理事、
日本舞踊協会花柳寿南海理事
後列左から中国雲南省舞蹈家協会張亜錦秘書長、
オフィス岩瀬代表岩瀬敬一郎氏、当財団大野晃常務理事、
当財団黛莉香氏、ホテルオークラ元副社長橋本俊雄氏



大野常務理事、中国・張秘書長と韓国の舞踊団

2006年世界舞踊祭に参加

2006年3月4日（土）

2006年3月5日（日）

港区赤坂区民センターで開催された、茨城大教授国枝タカ子先生主催の「世界舞踊祭 2006」に当舞踊団も参加し、「ややこ踊り」「博多節」「棒踊り」「黒田節」「ソーラン節」「鳩間仲森」「祝い舞」の計7曲を4日、5日とも

に上演した。この催しは、世界各国の民族舞踊を中心に、出演団体はプロとアマチュアが混じった構成プログラムだが、幅広いジャンルの舞踊グループが出演している。

ジャンルと出演団体は次のとおり（順不同）：

- ・ルーマニア民族舞踊（郷民族舞踊研究所）
- ・15世紀イタリア宮廷舞踊（聖徳大学）
- ・ギリシャ・ダンス（「ケフィー」）
- ・インド舞踊（マニプリ舞踊団）
- ・モダンダンス（タンダバハ・ダンス・カンパニー）
- ・イサドラ・ダンカンの舞踊（川村学園女子大学ダンス部）
- ・「思い」（バレエ中原由美子、オイリュトミー、地唄舞・花崎杜季女）
- ・祀る、津軽タント節、愛よ、愛よ（芙蓉流港クラブ）
- ・マレーシア民族舞踊（ムカル・ブダヤ舞踊団）
- ・琉球舞踊（志田房子）
- ・ハワイアン・フラ（ミリミリ）
- ・日本民族舞踊（黛民族舞踊団）
- ・中国の舞踊（鳳仙功舞踊団）
- ・韓国舞踊（金梅子・梅の会）
- ・琉球舞踊（四つ竹の会）
- ・地唄舞「珠取り」（古澤侑峯）



シーサンパンナの水かけ祭り 「景洪」(雲南経済報社)より

財団法人 黛民族舞踊文化財団のあらまし

財団法人黛民族舞踊文化財団は、我が国伝統の民族舞踊を舞台芸術として確立し、その普及向上を図るとともに国際文化交流を行うことを目的として、昭和61年3月文部大臣から設立を許可された法人です。

財団設立後は、(1)民族舞踊普及向上のための中央における公演をはじめ、地方巡業公演を活発に行ってひろく一般にこれを紹介し、また研究成果の発表会等を開催し、(2)後継者の育成を目的として民族舞踊の研究者(音楽、振付けを含む)、舞踊家のための研究会、研修会等を開催して創造活動を奨励すると共に技能の向上を図り、(3)日本各地および中国・韓国・東南アジア諸国の民族芸能を取材し、その研究を行うと同時に収集した資料を整理保存して一般にこれを提供し、将来は資料館を設立して一般の利用に供することを計画しています。また、(4)世界各国にはそれぞれ民族舞踊団が国家の庇護のもとに活動していますが、これら舞踊団との交流や、中国・韓国・東南アジア諸国の民俗芸能伝承者たちとの交流等、幅ひろい国際交流を推進して相互の連携と研鑽につとめ、(5)民族舞踊、民族芸能に関する資料および研究成果等の出版物を刊行して、民族舞踊に対する理解を深める目的達成のため、年次を追って事業を充実していきたいと考えております。

しかしながら、事業を発展充実させていくためには、何と申しましても経済的基盤を確立する必要があることを痛感いたしております。

当財団が、真にわが国を代表する民族舞踊の振興団体として育ってまいりますよう、財団の事業目的をご理解くださり、各界の方々の御支援を心からお願い申し上げる次第です。

つきましては、当財団には賛助会員規定を設けておりますので、皆様にはぜひ賛助会員として、会費により御支援を賜りたく、お願い申し上げる次第です。

民族舞踊文化 No. 18

2006年5月11日発行

発行人 犬丸 直

編集人 大野 晃

〒107-0052 東京都港区赤坂 3-10-3 黛ビル 4F Tel 03-3583-3633

財団法人 黛民族舞踊文化財団

Fax 03-3583-3639

THE MAYUZUMI FOUNDATION FOR TRADITIONAL FOLK DANCE

MAYUZUMI BLD 4F, 3-10-3, AKASAKA, MINATOKU, TOKYO